

2023 年度 小委員会活動成果報告

(2024 年 1 月 18 日作成)

小委員会名	生活様式変容と住環境計画小委員会	主 査 名：室田昌子 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：野嶋慎二
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本委員会では、今後の生活様式の変容に着目し、その変容の方向性と住環境に及ぼす影響を検討し、今後の住環境計画の在り方を提案する。</p> <p>生活様式の変容の要因としては、生活変化、働き方の変化やテレワーク化、IT化の浸透、自然環境志向、コミュニティや人間関係の変化など、継続的变化に着目し、これらによる住空間・近隣・日常生活圏の行動変化とニーズ変化、住宅の立地構造変化などを想定する。住環境に関連する価値変化、生活様式や行動変化を踏まえ、住環境として望まれる空間や施設、環境、立地を検討し、住環境計画の在り方を提案する</p> <p>初年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の開催（オンライン開催）：研究方針の検討・前提条件や分析枠組みの検討、価値変化・生活様式変化・行動変化に関する知見の共有の実施 ・学会大会におけるOSの実施 <p>2年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の開催（オンライン開催）：価値変化・生活様式変化・行動変化の検討、各地域・各空間・各視点におけるニーズ変化・課題の整理 ・学会大会におけるOSの実施 <p>3年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の開催（対面開催とオンライン開催）：各地域・各空間・各視点におけるニーズ変化・担い手確保・課題の整理と住環境再生方法の検討、 ・合同見学会・ヒアリング調査の実施 ・公開研究会の開催 <p>4年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の開催（対面開催とオンライン開催）：住環境計画の提案・取りまとめ ・合同見学会・ヒアリング調査の実施 ・学会大会におけるPD 	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：室田昌子 幹事：桑田仁、佐久間康富 委員：青木幸一、阿部大輔、川田浩史、木内望、後藤智香子、斉藤圭、鈴木健太郎、中野卓、似内遼一、星卓志、山村崇、吉村輝彦</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	該当なし	
2023 年度予算	220,000円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回 (通常小委員会 4 回、12 月開催公開研究会 1 回、2 月開催予定大和ハウス郊外住宅地再生報告会 1 回、3 月開催予定の 1 泊 2 日大阪視察会 1 回)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. 該当なし
講習会	1. 該当なし 参加者数 名

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	<p>1. 公開研究会「郊外の住環境再生における《小さな》アプローチ」 参加者数 55 名</p>
<p>大会研究集会</p>	<p>1. 該当なし</p>
<p>対外的意見表明・パ ブリックコメント等</p>	<p>1. 該当なし</p>
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)</p>	<p>1. 本年度は、3年目ということで次年度の取りまとめに向けた活動を行った。関連する情報収集や課題の共有、社会に向けての発信を目的に、公開研究会を企画した。公開研究会の12月の開催に向けて、テーマの検討、論点整理などを行い、テーマ・論点に合致した4名を招いて活動報告をしてもらった。委員会の今後の取りまとめに向けて大変役立つ内容であり、目標は達成したと考える。 2. 公開研究会での議論をさらに発展させるために、公開研究会で報告のあった事例、及び関連する事例について2月、3月に事例報告会や視察を予定しており、次年度のPDに向けた論点の整理などの準備をする予定である。今後の予定ではあるが、現在、着実に進めている所である。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 今年度は最終年度にむけてその準備として論点をまとめることが目標であり、それに向けた活動を行っている。 2.</p>